



会報

発行人
北九州市小倉北区
豎町1丁目6番8-101
KCC事務局
石松 毅彦
TEL 093-561-8283
FAX 093-561-7373
E-mail info@kcc-group.net



『激流に 耐えてふんばり 人つなぐ』山国川 (令和4年度土木遺産に認定)

(株)太平設計 笠井春生氏 撮影

さて、昨年は元日に令和6年能登半島地震が発生し、9月には令和6年9月能登半島豪雨が降り、度重なる自然災害に被災された方々の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。気象的には、2年続いて記録的猛暑となりました。そして、年末には大寒波に襲われ、東北地方では記録的大雪となりました。日本の気候が変化して、四季が消えかけています。日本列島周辺の海水温上昇による影響と考えられております。地球温暖化に対する対策の必要性を強く感じております。

我々建設コンサルタントを取り巻く状況も更に厳しいものとなっております。令和7年度は、日本人の5分の1が75歳以上の後期高齢者となり、働き手不足への対応が早急に求められています。今までは、定年後の再雇用などで人数の減少を食い止めてきましたが、若い人材確保のための施策が必要となって来ております。働き方改革ではありませんが、新4K(給与・休憩・希望・かっこいい)の早期実現が必須です。政府におかれましては、インフラ整備の担い手・地域の守り手である建設業等がその役割を果たし続けられるよう、担い手確保・生産性向上・地域における対応力強化を目的に、令和6年6月に第3次担い手3法が制定されました。当協会も生産性向上の為に、ドローンやBIM/CIMの活用、インフラ部門のDX(ICT施工の推進等)活用が求められています。北九州市様におかれましては、令和6年3月に、新ビジョン(北九州市基本構想・基本計画)を策定されました。目指す都市像や重点戦略を掲げた基本構想、及びその実現に向けた主要な政策を体系的に掲げた、2040年を目標年次とする基本計画となっております。アセットマネジメントやウォーターPPPなど新しい官民連携の形が推奨されております。KCCも技術者集団として遅れることなく新しい技術を身に着け北九州市様に寄り添いながら、社会インフラ整備への専門家としての技術を発揮しながら、今後の社会情勢の変化に対応して行きたいと思っております。

最後に、皆様の益々のご活躍とご発展を祈念致しまして年頭のご挨拶と致します。



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、新春を迎えられ益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

(一社)北九州市建設コンサルタント協会
会長 松尾 禎泰

新年のご挨拶



世界をリードする サステナブルシテイへ



北九州市長 武内 和久

新年おめでとーございます。

北九州市は昨年9月に「5つの過去最高」を発表しました。企業誘致による投資額、北九州港フェリー貨物量、小倉城入場者数、ふるさと納税寄附額、市税収入のすべてが過去最高となりました。これは、北九州市が持つ人と人の「つながり」、熱い「情熱」、そして、確かな「技術」力の賜物だと感謝しています。

一年を振り返ると、IT企業や半導体関連などの未来産業の誘致・進出が進み、7月に竣工したオフィスビル「BIZIA KOKURA」では、多くの方が新たなビジネスを開始されました。そうした影響もあり、人口の社会動態は、1月からの累計値が11月末時点でプラス値を維持しています。これは、1964年以来60年ぶりの高水準です。

企業の進出や人の流入が進んでいる背景には、北九州市のポテンシャルを見える化し、活用してき

たことがあります。具体的には、滑走路3,000m化を着工した北九州空港をはじめ陸・海・空のあらゆるアクセスが充実し、中小を含めた幅広い企業が集積し技術力があることや、年間3,000人もの理工系人材の輩出力を有すること、そして、地震など災害の発生が少ないエリアであること、人情に溢れ豊かで暮らしやすい生活環境が整備されていることなどが挙げられます。

また、様々な規制緩和にも取り組み、経済の活性化を進めてきました。地域未来投資促進法を活用した産業用地の確保、若松北海岸の観光地化に向けた規制緩和や、コクラ・クワサキリビテーションでの容積率の緩和などに取り組みました。

そして、「人」や「モノ」の流れを作るということにも大きな展開がみられました。6月の「バレーボールネーションズリーグ」に始まり、「パルクール世界選手権」、「卓球WTTファイナルズ」の開催など国際スポーツ大会が目白押しの中で、北九州市ならではのエコフレンドリーな大会運営も含め、国内外から大きな注目を集めました。

この勢いをさらに増していくために、2025年は「女性」と「サステナブル」をキーワードに新たなチャレンジを続けていきます。

「女性が活躍しやすいまち、コンパクトな（心地よい）まち」や、環境先進都市としての蓄積に裏付けされた「世界をリードするサステナブルシテイ」を目指していきます。

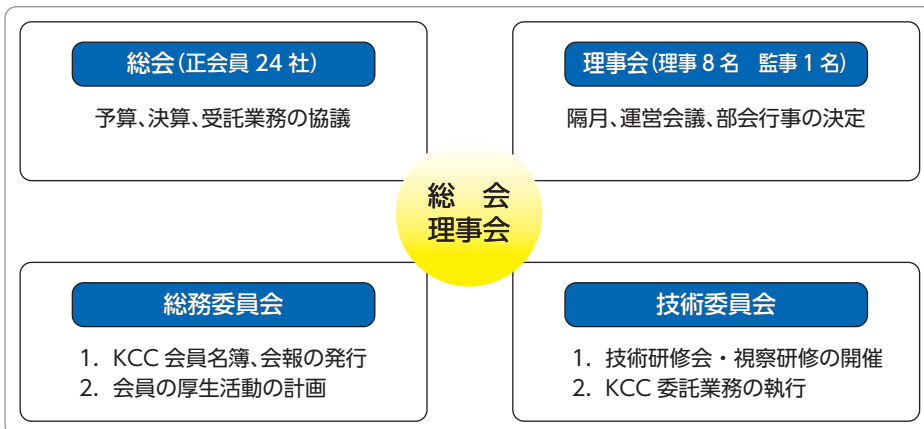
また、少子高齢化の先進都市として、社会課題の解決に果敢に挑戦し、日本そして世界に存在感を示し、世界をリードする役割を果たしていきます。

ワクワクする北九州市の未来にぜひ期待し、注目してください。結びに、皆様方ますますのご発展と、今年一年が明るく実り多き年となることを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。



KCC

活動組織の概要



- 【総務委員会構成】
- ① 広報部会
 - ② 厚生部会

- 【技術委員会構成】
- ① 建設部会
 - ② 上水道部会
 - ③ 下水道部会
 - ④ 都市計画部会

KCC 正会員の技術者 490名

建設コンサルタント業務は、建設される施設の品質とコストに大きな影響を与えるため、高度な技術力が求められます。更に、頻発する自然災害や社会資本の老朽化など山積する社会的課題の解決に向けて重要な役割を担っています。

協会では、共益的視点から社会資本の整備保全に貢献するため、継続的に技術の改善、人材育成に注力しています。

(一) 技術者・社員数
協会・正会員の技術者数は、(北九州市内の事業所配属数・令和6年10月1日現在) 490名です。

同様に、事務職社員は93名、総数583名です。

一つの企業体として俯瞰すれば、市内有数の大企業とも言えます。

KCC 令和6年度の活動

(一) 災害時支援・協力協定
KCCでは、平成30年10月に北九州市と、『災害時における災害応急対策業務の支援に関する協定書』、令和4年3月に北九州市上下水道局と、『災害時における上下水道施設の技術支援協力に関する協定』を、それぞれ締結しています。

これら『支援・協力協定』に基づき、これまで、豪雨災害による被害に対する補修工法の検討など、災害応急対策業務の支援に取り組んできました。

令和2年7月豪雨では2件、令和3年8月豪雨では2件、令和5年6月末〜7月豪雨では5件の災害時支援に取り組んできました。

令和6年度は、7月豪雨で発生した公園内遊歩道の災害対策に取り組みました。

令和6年7月16日(火)午後、要請から約3時間と、短時間ではありましたが、正会員5社(名簿順に、㈱アルファ、九州コクド㈱北九州事務所、㈱東亜コンサルタント北九州営業所、㈱福山コンサルタント北九州本社、㈱松尾設計)が対応可能との回答を頂きました。

速やかに北九州市に報告した結果、

(二) 技術者の資格保有状況
保有する資格は、技術士、RCCM、下水道技術検定、コンクリート診断士、道路橋点検士をはじめ、測量、土木施工管理技士など多岐に亘ります。

この中から、取得者の多い、主な資格は次表のとおりです。

資格分類	有資格者数(延数)
技術士(認定・技術士補を含む)	152
建設部門	80
上下水道部門	49
総合技術監理部門	16
その他	7
RCCM	168
下水道技術検定(一種・二種・三種)	51
コンクリート(診断士・構造診断士・プレコン)	42
道路橋点検士(研修修了者を含む)	57

『資格』は客観的な技術力の裏付けとなり、社会的な信用度を保ちます。また、技術者自身のやりがい、スキルアップに繋がるとともに、会社、さらには、協会を魅力ある集団として発展させる原動力となります。

果、市から㈱東亜コンサルタント北九州営業所に支援要請がなされました。

同会員は、迅速に市と協議を重ね、災害復旧に向けた設計を行いました。市はこの成果を踏まえ、10月初旬には財政措置の手続きを整え、10月末には工事発注に至ったとのことです。現在、年度末の完了を目的に、順調に工事は施工されています。

(二) 調査等検討事業
北九州市が実施する構造物の設計指針改訂、維持管理計画策定などの業務について、これまで、協会の共益的な立場から業務を受託してきました。

このことは、建設コンサルタント業務が適切かつ円滑に実施でき

環境づくりに、地元企業団体としての役割を果たせたものと考えています。

令和6年度は、北九州市上下水道局から『下水道施設コンクリート防食指針(案)改訂業務』を受託しています。

この業務は、最後の改訂が平成22年度となっている『下水道施設コンクリート防食指針(案)』について、準拠している基準の改訂に合わせてその内容を調整・見直すものです。

併せて、『管更生工事設計積算基準』においても、防食工法にかかわる項目を修正することとしてあります。

この業務は、下水道部会に所属する正会員9社(名簿順に、㈱旭技研設計コンサルタント、㈱ウエダ、九和設計㈱、計測検査㈱、㈱吾水総合コンサルタント、㈱太平設計、日興コンサルタント㈱、北九設計㈱、㈱松尾設計)が連携し、役割分担を決め、令和7年2月末の期限に向けて、鋭意、作業を進めています。

(三) 技術研修会
技術研修会は、KCC発足時から綿々と続く重要な事業で、昭和62年7月に第1回技術研修会が開催されました。

現在では、技術委員会・専門部会による研修企画立案、賛助会員からの情報提供などを踏まえ、設計技術、並びに、建設工法や材料知識の習得などを目的に、年間3回〜4回程度の頻度で開催しています。

令和6年度の実施状況は次のとおりです。

令和6年度の実施状況は次のとおりです。

◇第1回 6月26日開催
参加者数 40名

- ①プレキャストコンクリートにおける低炭素化の取り組みについて
- ②国産れんが 発祥から現代まで
- ③コンクリート構造物の健康寿命を延ばすJ-ティフォームについて

◇第2回 7月26日開催
参加者数 42名

- ①水道管路における水理設計について
- ②ダクタイル鉄管の管路設計について

◇第3回 10月30日開催
参加者数 39名

- ①ダクタイル鉄管管路の設計演習(座学・演習)

◇第4回 10月31日開催
参加者数 16名

- ①橋台背面FCB工法盛土のFEM解析による耐震性能検証
- ②乾式吹付工法、劣化した橋梁床版上面補修材について
- ③SPRーSEE工法エキスバンドタイプによる下水道管における自立管構築について



第2回

技術研修会を振り返って

寄稿

研修に参加された榎松尾設計公
共設計部上和田泰雅様から、研修
報告を寄稿していただきました
ので、ご紹介させていただきます。

明を受け水力計算の必要性につ
ての説明を受けた。
水力公式ではヘーゼン・ウィリ
アムスの公式について説明があっ
た。

水撃圧の説明では、ウォーターハ
ンマ(水撃作用)がどのようにして
発生するのか。また、水撃圧対策
について説明を受けた。

令和6年7月26日(金)に令和6
年度第2回技術研修会が北九州市
男女共同参画センタームーブにお
いて開催された。技術研修会は2
部に分けられて行われた。第1部
は「水道管路における水力設計」と
題し水道管路における水力設計に
おいての物理学の概要、水力設計
の概要、水力公式、管径の算定、
水撃圧について、説明が行われ
た。

管の管路設計について」と題し、
管厚計算、異形管防護、付属設
備、軟弱地盤対策、配管設計上の
留意点、管路諸元と管割図の作成
について説明が行われた。
管厚計算では、管径の選定にお
いての計算を教わった。北九州市
では、設計マニュアルにより、管
種の選定については、決まりがあ
るため管厚計算を行ったことがな
かったため、別の自治体の業務を
する際は、とても参考になった。

はじめの物理学の概要では、水
道管がなぜ円形なのか、静水圧、
設計水圧の基準などの管路に加わ
る圧力、損失水頭などの摩擦損失
について説明が行われた。

異形管防護については、不平均
力が発生する場所、不平均力対策
が不十分であった場合の影響につ
いて説明があり、主な異形管防護
方法について説明があった。

次の水力設計の概要では、管路
設計の手順、水力計算の必要性や
配水方式、配管方式の特徴につい
て説明が行われ管路設計の手順で
は、基本計画から竣工検査までの
流れを教わった。

私は、6年程設計の仕事をして
おり、異形管防護についても設計
のたびに検討をしていたが、頭で
は理解できていたことも実際に講
習を受けて異形管防護の必要性に
ついて認識を改めることができた。

水力計算の必要性では、水道の
蛇口から水を出すためには、圧力
が必要な事や、水が管の中を流れ
る距離が長くなると摩擦による抵
抗が大きくなり水が出なくなると
とがあり、流速が大きくなると内
面ライニングを痛め、小さいと滯
留時間が長くなり、残留塩素が低
下し水質への影響があるなどの説

付属設備では、水道管に付属す
るバルブ、空気弁、消火栓の種類
や、設置場所について説明を受け

た。
軟弱地盤対策については、構
造物との取合部や硬い地盤から柔
らかい地盤へ地層が変化する箇所
では、継ぎ輪を2箇所以上設置し
地盤の変化に対応できるような設
計が望ましいとの説明を受けた。
継ぎ輪が拘束長の範囲内に入る際
には、通常GX形の管では「Link
を用いて離脱防止を行うが「Link
では継ぎ輪の受け口に遊びがなく
なるため、別途製品である離脱防
止の製品を使用すれば遊びがある
と教えていただき今後の業務に活
かせると思った。

管設計上の留意点についてで
は、切管の最小長さ(1mか呼び
径の長い方)や継ぎ輪に異形管を
接続する事はできない事や、一体
化長さが長くなりすぎると管路の
多くが離脱防止継手による剛構造
管路となるため、地震などによる
地盤の変動に対応できなくなるた
め、防護コンクリートを使用して
剛構造管路を減らす方法について
説明があった。
最後の管路諸元と管割図の作成
については、図面や管材の名
称、管路諸元などの図面について
の基本的な部分について説明が行
われた。
今回の講習を受けて理解してい
る部分については、再確認をする
ことができた、知らなかったこ
ともあり、今後の仕事に役立つ講
習会であったと思います。
次回開催の技術講習会にも参加
させていただきたいと思いました。
最後に今回講師をしていただ
いた北九州市建設コンサルタン
ト協会及び関係者の方々に感謝い
たします。



事務局だより

社名の変更

極水設計株式会社は、令和6年
7月1日付で、九州コクド株式会
社に名称が変更となりました。



広報部員 つぶやき

皆さんは「最近、物忘れが多く
なったな」と感じている方はい
らっしゃいますか。私はとても感
じています。

「人の名前が出てこない」「あ
れ?何するつもりだったっけ?」
と立ち止まること等々。その対策
に、メモしたり、アラームを設定
したりするのですが、それを忘れ
てしまう始末。自分の記憶が信用
できない、永遠の追いかけてこ
す。

しかし、忘れるという機能が人
から無くなったら、ちょっと辛
いかもしれません。嫌な記憶は忘
れたいものです。忘れたことは消
し去って、覚えておきたいことは
ずっと記憶できたら、どんなに良
いでしょう。

記憶力を上げる方法として、マ
イナス思考な言葉を使わないとい
う方法があるそうです。他にも
「声に出す」方法や、青魚に含ま
れる「DHA」を摂取したり、体
動かして脳の血流を改善したりと
いろんな方法があるので、物忘れ
にお悩みの方は試してみたいか
がでしょうか。

榎松尾設計 坂本妙子

